

[成果情報名] 硬質小麦「タマイズミ」安定生産のための生育指標

[要約] 「タマイズミ」の収量は穂数との相関が高く、子実重 40kg/a 以上を確保するには穂数が 400 本/m²以上必要である。収量確保のための生育量の指標値は、止葉抽出始期の草丈×1 平方メートル当たりの茎数が 27000 以上であり、高タンパク質化のための止葉葉色の指標値は、穂揃期で 38 以上である。

[キーワード] 硬質小麦、タマイズミ、生育指標

[担当] 三重科技・農業研究部・伊賀農業研究室、作物グループ

[連絡先] 0595-37-0211、kitanj00@pref.mie.jp

[区分] 関東東海北陸農業・関東東海・水田畑作物（冬作物）

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

平成 14 年度に推奨品種に採用した硬質小麦「タマイズミ」は、主に醤油用途として伊賀地域を中心に 461ha 作付けされているが、実需者の要望が強く、今後さらに作付け面積の増加が見込まれる。そこで、低湿な水田輪換畑で栽培されるため収量、品質が変動しやすい本県の小麦作における「タマイズミ」の高品質安定栽培のための生育指標を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「タマイズミ」の収量は穂数との相関が高く、子実重 40kg/a 以上を確保するためには、穂数は 400 本/m²以上必要である（図 1）。
2. 止葉抽出始期の生育量と収量には高い相関関係が認められ、子実重 40kg/a 以上を得るには草丈×1 平方メートル当たりの茎数で 27000 以上が必要である（図 2）。指標値の具体的生育量は草丈 38～42cm、茎数 680～780 本/m²であり、適正な葉色値は 40～43 である。
3. 目標子実タンパク質含量を 11%以上とすると、穂揃期の適正な葉色値は 38 以上であり、42 以上あれば追肥を施用しなくてもよい（図 3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 得られた成果は、11 月上中旬播種の細粒灰色低地土の水田輪換畑小麦栽培に適用する。
2. 止葉抽出始期の生育指標値はその後の窒素追肥を前提としている。
3. 止葉葉色値は葉緑素計 (SPAD-502) を用いて測定した。

[具体的データ]

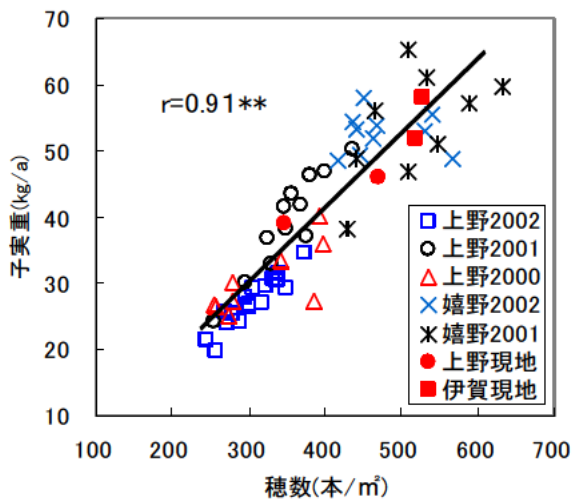


図1 穂数と子実重の関係
 試験年度：'00～'02年
 子実重：篩い目 2.2mm、水分 12.5%

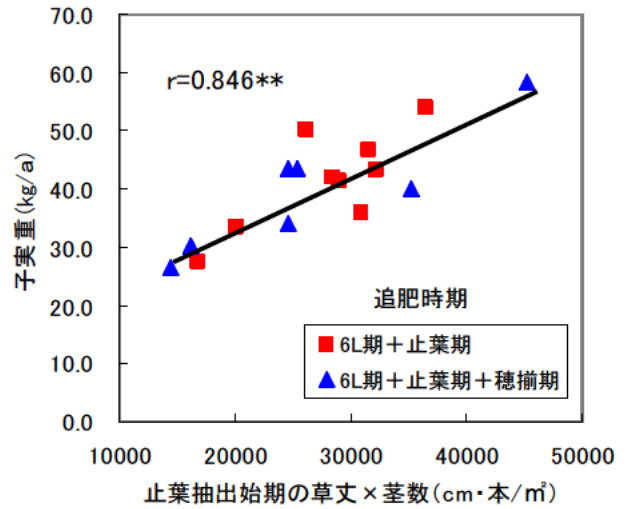


図2 止葉抽出始期の生育量と子実重の関係
 試験年度：'00～'01年、試験場所：上野
 子実重：篩い目 2.2mm、水分 12.5%

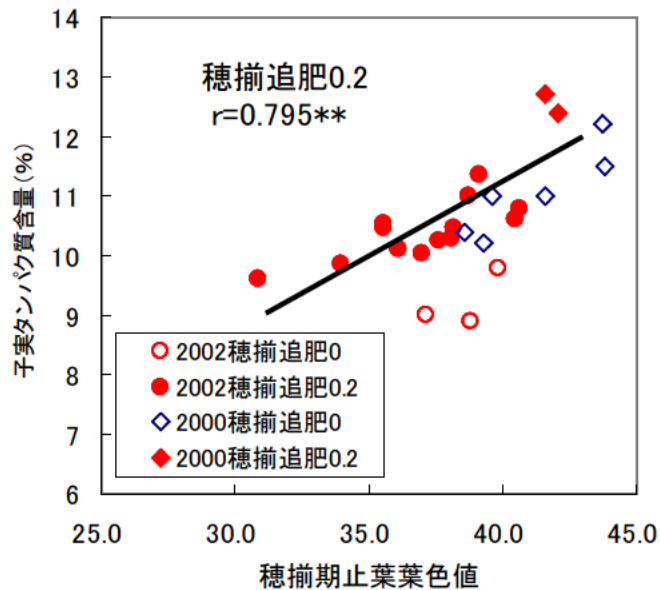


図3 穂揃期の止葉葉色値と子実タンパク質含量の関係
 試験場所：上野、子実タンパク質含量：水分 13.5%

[その他]

研究課題名：新品種の選定および地域特産物の高品質技術開発

三重県の水田輪換畑における有望早生小麦品種の品質・収量安定化栽培技術の開発

予算区分：県単、プラニチ1系

研究期間：2001～2003年度

研究担当者：北野順一、村上高敏、中山幸則、神田幸英、山川智大